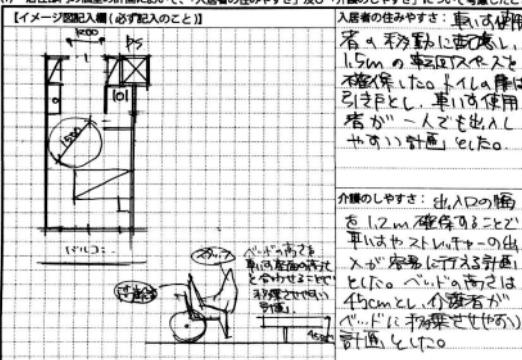


1級建築士設計製図 本試験復元課題 「高齢者介護施設」

講義形式
(リモート授業用)

★復元にあたっては、「いつもの・・・」といった省略や、図示の程度（定規かフリーハンドか等）にも特に配慮し、出来る限り実際に、本試験で記述した内容を再現するようとしてください。

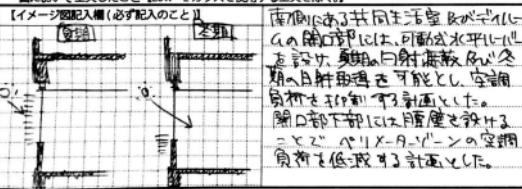
(1) 居住部門の個室の計画において、「入居者の住みやすさ」と「介護のしやすさ」について考慮したこと



(2) 居住部門及び居住サービス部門のスタッフルーム等に関する必要な諸室の配置について考慮したこと

スタッフルームは利用者がエレベータの正面に配置し、各階、各部門の入り退室管理がしやすい計画とした。また、建物中央奥に配置したこと。
スタッフルーム自体は行き届きやすい計画とし、汚水洗浄室等、必要諸室はユニット毎、部門毎に設けシングルを採用して計画した。

(3) 共同生活室及びティールームについて、自然光を取り込みつつ、冷房時の負荷抑制を図るために、建築計画において工夫したこと【LOW-Eガラスを使用する工夫を除く】



(4) 建築物の構造計画について、建築物の特性に応じて採用した構造種別・耐震計算ルート（採用したルートを〇で囲む。）とそれらを採用するに当たり、耐震性を確保するために考慮したこと

構造種別	鉄筋コンクリート構造
耐震計算ルート	ルート1・ルート3・その他()

考慮したこと：津波の作用で考慮し、耐火性能評価性、既存性に優れた構造を採用し、柱間剛性より内柱間10mで柱間10mとしたため、外柱間は6mとなり、柱一本あたりの荷重負担が均等となるよう設計。床荷重の設定は、西側柱間10mで10t/mとし、東側柱間6mで8t/mとした。

(5) 車寄せの屜板・庇等となる部分の寸法、有効高さ及び車寄せの屜板・庇等の構造計画（名義寸法、部材の材質、支持方法及び耐震性等）について考慮したこと

【イメージ図記入欄 (必ず記入のこと)】	車寄せの屜板・庇等となる部分の寸法 (mm)
	(長辺×短辺×屜高) 10000×4000×800 有効高さ (mm): 3200
構造計画について考慮したこと：鉄筋コンクリートの構造から4mの底を突出させることで庇を形成し、H形鋼柱用に鉄骨壁造の庇を設けた。大深さ支持柱とともに、先端を庇ることで庇安定性を確保した。	

(6) 地盤条件や経済性を踏まえた、支持層の考え方、採用した基礎構造とその基礎底面のレベルについて考慮したこと

支持層はN=30以上の烈震基盤層とし、不同沈下に対する対応対策として、基礎剛性を半分にした。既存建物等が柱状断面とその周囲均等化設置を行うことにより、地盤強度と地盤性状を確保した。

(7) インフルエンザやノロウイルスへの対策について、施設内面や設備面において考慮したこと

高齢者が日中も退室室は外廊下に面して計画し、自然通風が確保される計画とした。新鮮空気を供給できる屋上に室外排気装置を設け、共用部から退室全室に排気が行える計画とした。

(8) 高齢者介護施設としての空調方式について、採用した空調方式とその理由

空調方式：完全ヒートポンプ方式 天井カセット型
その理由：個室や宿泊浴室などは未見葉室で窓が複数あるため、個別制御が容易で、高齢者にとってやさしい体制に合わせて空調を行なうことから採用した。

記述時間	教 室	担当講師名	受 講 I.D.	氏 名
14	土	△先生	E746973	石川豊太郎